

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

ウシガエルの餌として神奈川県に導入され、その一部が逸出して全国に広まりました。鹿児島県では重要防除種に指定され、県本土各地、甑島、奄美大島、沖永良部島で確認されています。水生動物を捕食し、生物多様性を低下させる影響が確認されています。飼っている場合は、最後まで責任を持って飼い続け、途中で絶対に捨てないようにしましょう。

1 基本情報		
分類		
目・科名	十脚目アメリカザリガニ科	
種名(亜種名)	アメリカザリガニ	
学名	<i>Procambarus clarkii</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北米南部	
県内初報告	1967年頃の別府川に生息していた記録がある	
県内への侵入の経緯	人による持ち込みか隣県からの水系を介しての侵入	
県内の侵入分布	県本土各地、奄美大島、沖永良部島	
全国の侵入分布	全国	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小魚、水生昆虫などの小動物、動物の死骸、水草などを食べる。水深が浅く、水底が泥のような場所を好む。抱卵したメスや冬の間は粘土質の湿地に穴を掘って生活をする。	
形態	体長最大15cm。 若い個体の体色は淡褐色～黄褐色、成熟すると赤色～赤褐色になる。	
繁殖形態	繁殖期は6～10月で、孵化した幼体は、4～5回脱皮を行うまではメスの腹肢に付いたまま生活する。	
生息環境	湖や沼、流れの緩やかな河川、ため池、水田、水路、公園の池など。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①他の水生動物の捕食。捕食による食物連鎖を通じて、水辺環境を大きく改変し、生物多様性を低下させる。 ②水田でイネを食害したり、畦に穴をあける。
県内で特に予想される被害	水生動物の捕食。生物多様性の低下。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①水生動物の捕食。 ②人による持ち込みか隣県からの水系を介しての侵入。
3 対策	
アメリカザリガニを見つけたら	飼っている場合は、最後まで責任を持って飼い続け、途中で絶対に捨てないようにしましょう。
見分け方	鹿児島県内には他のザリガニ類は生息しないため、見間違えることはない。
見かけやすい場所・時間	基本的に夜行性である。湖や沼、流れの緩やかな河川、ため池、水田、水路、公園の池などに生息する。水質汚濁への耐性が高く、汚れた水でも生息する。
防除方法	水抜きやかごわなによる防除。
防除の取組事例	神奈川県自然環境保全センターでは、アメリカザリガニを駆除する目的で、センター内の自然観察園内でザリガニ釣りを実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70320.html 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物。平凡社。東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 福田晴夫・木尾薩己(1986)鹿児島県のアメリカザリガニについて。鹿児島県立博物館研究報告(第5号):1~8 https://www.pref.kagoshima.jp/bc05/hakubutsukan/shien/documents/6329_20120215152220-1.pdf 神奈川県ホームページ ザリガニ釣りのご案内 http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5825/p672473.html